本願寺西山別院報
久遠
-QUON-
第39号
〒615-8107
京都市西京区川島北裏町29番地
Tel:075-392-7939
Fax:075-394-4416
e-mail: nishiyamabetsuin@msa.biglobe.ne.jp

ご縁を慶び、お念仏とともに

親鸞聖人御誕生 850 立教開宗 00

新年のごあいさつ

本願寺西山別院輪番
学校法人本願寺学園理事長
西山幼稚園園長
長屋 善洋

慈光迎春（じこうげいしゅん）

慈しみ（いつく）の光の中で、春を迎える

阿弥陀如来のお慈悲の光に包まれて、新年を迎えられましたこと、ここにお慶び申しあげます。新たな年の始まりを「お念仏とともに」お迎えすることが出来ました。阿弥陀さまの大いなる慈しみの心に包まれていることに気づくとき、私たちの心に安らぎがもたらされます。阿弥陀さまのみ教えに生かされる悦びを、そして「他人（ひと）の喜び・悲しみ」を「自らの喜び・悲しみ」とする阿弥陀さまの温かいお心を、少しでも伝えさせていただく身に育てられるのです。

念仏者の人生は、いかに世の荒波に翻弄されようとも、阿弥陀さまのおさとりの心のなかにあります。だからこそ、念仏者はそれぞれの場で、慌ただしく、移り変わりも早く、先行きも見えない。そのような私たち一人ひとりに対して、阿弥陀さまは、「あらゆる〝いのち〟を分け隔てなくおさめ取ろう」と、たえず呼びかけておられます。みなさまと一緒に合掌し「南無阿弥陀仏」と感謝お念仏を称えさせていただきましょう。

まず、このたびの新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた国内外の多くの方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、罹患されている皆さまに心よりお見舞い申しあげます。さらに、特に高い感染リスクにさらされながらも、懸命に治療・対策にあたられている医師、看護師をはじめとする医療従事者の方々に深く敬意と感謝を表したいと思います。

こうした危機的な状況において、世界中の人びとが共に力を合わせ、励まし合って対応しておられます。しかし、症状が出ないために感染に気づいていない人の行動が、感染拡大の一因となっている場合もあるのではないかとも指摘されています。

感染症の危険性や対処法を正しく理解し、実行するとともに、差別や偏見が拡がらないよう、一人ひとりがお互いを思いやり、注意深く行動していきたいと願っております。

さて、来る二〇二三（令和五）年に、宗祖親鸞聖人の御誕生八五〇年、またその翌年には立教開宗八〇〇年にあたる記念すべき年をお迎えいたします。

本願寺では、五期三十日間に亘って「親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要」が厳修されます。

この慶讃法要は、宗祖親鸞聖人の説き示してくださった浄土真宗のみ教えに出遇うことがなければ、今の私はあり得なかったという聖人への感謝と、そのみ教えに出遇えたことの喜びを込めて、聖人の御誕生を祝い、また『立教開宗』に感謝する法要です。聖人が『教行信証』にまとめられた、他力念仏の教義こそが、在家出家を問わず等しく救われる道であることを、命をかけて顕かにされたことをあらためて共々に味わい、み教えに出遇えた喜びを分かち合えるご縁といたしましょう。

なお、本願寺西山別院においても、「親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要」の修行に向けて、具体的な準備を進めて参ります。

久遠-QUON-第三十九号
二〇二一(令和三)年一月一日発行
編集・発行　本願寺西山別院
発行者　長屋善洋　印刷　株式会社アースワーク
〒六一五-八一〇七 京都市西京区川島北裏町二九番地　電話〇七五-三九二-七九三九　FAX〇七五-三九四-四四一六

二〇二一(令和三)年 法要日程

二〇二一年の恒例法要の予定をご案内いたします。
皆さまのご参拝をお待ち申しあげます。

元旦会	一月一日(金)	※当院職員のみで執り行います
春季彼岸会	日程未定	
覚祖会	四月二十二日(木)	午後二時より
〃	〃	午後七時より
〃	四月二十三日(金)	午前七時より
〃	〃	午前十時より
盂蘭盆会	日程未定	
秋季彼岸会	日程未定	
報恩講	十月二十一日(木)	西山幼稚園報恩講
〃	十月二十二日(金)	午後二時より
〃	〃	午後七時より
〃	十月二十三日(土)	午前七時より
〃	〃	午前十時より
除夜会	十二月三十一日(金)	時間未定

年回法要、ご命日のお参りをご希望の方は、この『年回表』と皆さまのお宅にある『過去帳』をご参照のうえ、事前に当別院までご連絡ください。　電話 〇七五-三九二-七九三九

二〇二一(令和三)年 年回表

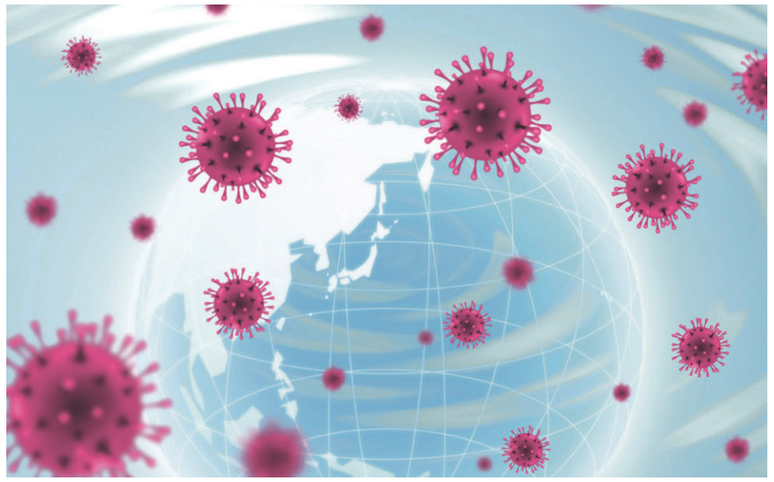
一周忌	二〇二〇(令和　二　)年
三回忌	二〇一九(平成三十一)(令和元)年
七回忌	二〇一五(平成二十七)年
十三回忌	二〇〇九(平成二十一)年
十七回忌	二〇〇五(平成　十七)年
二十五回忌	一九九七(平成　九　)年
三十三回忌	一九八九(昭和六十四)(平成元)年
五十回忌	一九七二(昭和四十七)年

本願寺西山別院の年末年始の法要について

この度の法要については、新型コロナウイルス感染防止の観点から別院役員はじめ、ご協力いただく方々にご依頼することが出来ず、また、大勢の参拝者に十分な感染予防を行って安全な法要を勤めることが難しいことから、行政機関や宗門のガイドラインに基づき、「除夜会」「元旦会」の法要は当院職員のみで執り行います。

なお、「除夜会」後の梵鐘（鐘撞き）につきましては、密集・密接にあたることから感染防止のため、休止とさせていただきます。

阿弥陀さまのお心をいただいて、自他ともに心安らぐ社会となるよう、日々精進させていただきましょう。



昨年二〇二〇(令和二）年四月七日に新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大に伴う「緊急事態宣言」が出されて以来、私たちは当たり前のように暮らしてきた日常から切り離され、何時終息するのか先が読めない不安な日々を送り、感染防止の取り組みや、日常生活も様々な悩みを抱えての日々でありました。

まず、このたびの新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた国内外の多くの方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、罹患されている皆さまに心よりお見舞い申しあげます。さらに、感染リスクにさらされながらも、懸命に治療・対策にあたられている医師、看護師をはじめとする医療従事者の方々、私たちのいのちと今の生活を支えてくれているすべての方々に深く敬意と感謝を表したいと思います。

先が見えないコロナ禍の中で

さて、聞き慣れない言葉や情報が飛び交う中で不安な生活を送っていますが、昨年は突然、前総理大臣から、外出の自粛、公立学校・保育園など、休校要請が発表され、仕事も満員電車での出勤を取り止めるようになりました。振り返りますと前世紀に作られ建付けの悪いままの法律を、政府が都合の良い解釈で、運用されておりました。憲政史上、国権の最高機関としての国会も、平時にリスクマネジメントの重要性を認識し感染症などに対応できる専門の行政機関の整備が改めて必要であり、保健所もこの法的整備が遅れていることから、報告原稿を送信する際に、複数の職員が確認した後に責任者の押印後ＦＡＸ送信して各都道府県庁で集約されて厚労省へ報告されていました。このような例から、罹患者を医療施設へ振り分けることも、人的配置や通信手段が旧来のアナログ式の連絡方法で行われていたことが明らかとなりました。この様な対応も法律の整備と、政府の担当省庁についても、これまで時代の変化に対応が遅れているように感じます。

ある記事に、感染症の専門家の**「一〇〇年前と何も変わっていない。我々の進歩はあったのか」**とコロナ禍の現状に悔しさをこぼしているコメントが載っていました。一〇〇年前と言えば、世界でスペイン風邪がパンデミックを起こした時、第一次世界大戦の最終年から足掛け三年、三度のピークを経てようやく終息し、「少なくとも四〇〇〇万人、世界の一〇〇人に二人が亡くなられていた」といわれ、疫病が人類を恐怖に陥れました。

リアルと触れあわないネットライフを「標準」（一気にデジタル化）に出来るのか？

学校については、文部科学省の規程に定められた授業時間数等に急遽臨時措置が講じられ、授業も登校せずに、コンピュータのネットワークを活用して「オンライン授業」（先生と生徒がコンピュータにより双方の動画通信）を自宅で受けることとなりました。仕事も、同様に出社せず自宅で勤務する「テレワーク」が推奨され、多くの経済活動が自粛を余儀なくされました。日々の生活面においても、飲食店、小売業、旅行業等が経済的に大きな打撃を受け、勤務する従業員や、パートタイマーや、学生アルバイト等が大きな影響を受けています。

その中で生き抜く知恵を「ｗｉｔｈコロナ」という考え方の提唱が広がる。

政府や専門家の使う説明には、時折「エビデンス…根拠となる証拠（データ等）」、この「ｗｉｔｈコロナ」（ウィズコロナ）、二〇一九年新型コロナウイルスとの「共存・共生」を意味するなどの、普段聞きなれない専門用語の表現が多用されます。

この「ｗｉｔｈコロナ」は、「新型コロナウイルスの感染拡大を警戒しながら、経済活動を進めていこうとする期間」という意味です。新型コロナウイルスが（少なくとも短期的には）撲滅困難であることを前提とした「新たな政策」をデザインする、つまり「新たな戦略的な生活様式」のことで、昨年の五月末に東京都知事が言及されたことにより、比較的よく知られる言葉となりました。

コロナ禍が世界中で蔓延し、「このわずかな期間にも世界の在り方」や「風景」、「人の考え方」などのライフスタイルを凄く警戒していかなければなりませんね。

新型コロナウイルス感染症は未だに収束を見ず、さまざまな不安を抱えながらの生活が続きます。阿弥陀さまのお心をいただいて、自他ともに心安らぐ社会となるよう、日々精進させていただきましょう。

阿弥陀さまのお心をいただいて

うれしい日、寂しい日、悲しい日。人生には一日として同じ日はありません。私たちは日々、さまざまな感情を抱きながら、時に誰にも言うことのできない苦しみや、悲しみを抱えて人生を精一杯に歩んでいます。

たとえ充実した日々であっても、何かに追われ続けていると、いつの間にか心に余裕がなくなってきます。たとえ周りにたくさんの人がいたとしても、そのつながりを見失った時、ふと孤独な気持ちにもなっていきます。そんなどうしようもない不安な気持ちを抱え、慌ただしく過ぎゆく世相に押し流されながら生きている私たちは、心のどこかで本当に心休まる場所、ほっとする場所を求めているのではないでしょうか。

阿弥陀さまはそのような私たち一人ひとりに対して、「あらゆるいのちを分け隔てなく救いとろう」と、たえずよびかけておられます。阿弥陀さまの大いなる慈しみの心に包まれていることに気づくとき、私たちの心に安らぎがもたらされます。

お寺は阿弥陀さまに手を合わせ、阿弥陀さまのお心をゆったりと感じさせていただく場所です。私たちの人生には阿弥陀さまがご一緒です。心が疲れてしまったとき、寂しさを感じたとき、一度ほっとする場所に立ち止まってみませんか。

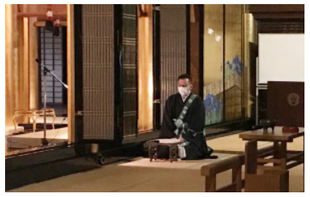
法報恩講要

御本山（西本願寺）の御正忌報恩講にさきがけて、当別院では、十月二十一日の幼稚園報恩講に始まり二十二日、二十三日の三日間にわたり、報恩講法要を厳修いたしました。

新型コロナウイルスの感染拡大防止のために法話時間の短縮等、法要の内容を変更し、お斎や仏教讃歌のコーラス、書道展などの催し物も中止いたしました。法要中は、本堂内の椅子の間隔をあけ、換気を十分に行い、境内各所にはアルコール消毒薬を設置いたしました。また、法話演台にはアクリル板を設置するなど、参拝の皆様方の健康を第一に感染防止策を講じて勤めさせていただきました。

この度の報恩講法要に残念ながらご参拝いただくことが出来なかった方々へ、法要の様子をご紹介させていただきます。

法要の風景


御伝鈔拝読

御俗姓拝読

アルコール消毒

西山幼稚園報恩講

献灯献花に続いて、「きみょう〜むりょう」と元気に正信偈をお勤めいたしました。

最後は、長屋園長が親鸞さまのお話をいたしました。

長屋輪番の法話

親鸞聖人

滋賀教区 藤実無極先生より「念仏者の生き方」〜いつでも　どこでも　ありがとう〜を講題に有り難いご法話をいただきました。

講師
本願寺派布教使
滋賀教区稲枝西組
報恩寺前住職
藤実　無極　師

講題
「念仏者の生き方」
〜いつでも　どこでも　ありがとう〜

いつでも　どこでも　ありがとう

藤　実　無　極

西山別院の報恩講法要のご縁をいただき、ありがとうございます。五十五年前の昭和四十年五月、私は得度習礼・教師教修をここ西山別院でお世話になり、資格取得させていただきました。当時とは比べようもありませんが、私にとっては懐かしい思い出の別院です。あれから五十余年が経ちますが、私の僧侶としての原点、スタートはこの本堂でした。みなさまに配布しました『いつでもどこでもありがとう』（本願寺出版社発刊）施本用冊子の一部を味わっていただきます。

いつの間にか私も八十歳近くになり、戦中、戦後と、いのちを生かされています。戦後の貧しい時代を体験し、そこから日本が復興、今日の日本を築きあげてきました。顧みればこんなに便利な世の中になろうとは想像もしていませんでした。日本人の勤勉さ、謙虚な人間性が築き上げたことは、まず間違いありません。すべてがよかったとはいえないまでも、世界の先進国として我が国の存在は大変なものがあります。

そこには日本の歴史、文化、そして科学技術の進歩がありました。しかしながら今年は新型コロナウイルス感染拡大により、日本のみならず世界中がコロナ禍で混迷しています。一日も早く収束してほしいものです。

使われてこそ、喜ばれてこそ

浄土真宗を開かれた親鸞聖人の報恩講をご縁に、味わっていただきたいのは、聖人の九十年にわたる生き方です。法然聖人に出遇われて以後、念仏者としての生き方をご自身で示されています。当時の人たちにお念仏の尊さ、ありがたさを伝えるために、惜しみなく身体を使われ、多くの人々に喜んでいただくように努められました。そればかりでなく後々までも念仏の教えが広まるようにと数々の著書を晩年まで記されています。私たちもできるだけこのお心を大切に少しでも世のため人のためにお役に立ちたいものでございます。

どうせやるなら、心を込めて

こんな言葉に出会いました。「どうせやるなら、ニコニコと　どうせやるなら、きちんとちゃんとどうせやるなら、心を込めて」

なかなかできませんが、心掛けることは大切です。生まれ難い人間に生まれ、お念仏申す身に育てられたお互いは、「心は仏のお宿にて、口は仏の出入り口、体は感謝の器なら、手足は仏の使いなり」の言葉を自覚して生きていきたいと存じます。

心には仏さまがいてくださいます。口から南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏と仏さまが出入りしておられます。この私の体は「ありがとうございます、おかげさまでございます」と感謝する器、入れ物でした。そして手足は、合掌する手に、お寺へ参ったり、お仏壇の前に座る足となり、まさに仏さまのお使いそのものの手足でした。これからの日々は「報恩行　なすべきいのち　いまだあり」と、ご恩報謝に励ませていただきましょう。　合掌

先生ご紹介

藤実 無極（ふじみ　むごく）

1942（昭和17）年　島根県生まれ
本願寺派布教使、滋賀県彦根市報恩寺前住職。
本願寺参拝部長、本願寺名古屋別院輪番等歴任。
現在、監正局長
著作『やさしい法話５　手を合わせると私が変わる』（本願寺出版社）
『いつでも どこでも ありがとう』（本願寺出版社）等。

おすすめの一冊

『いつでも どこでも ありがとう』 藤実無極
本願寺出版社　定価：¥110（本体¥100+税）

毎日の生活、お風呂、お手洗い……私たちの暮らしのなかには、たくさんの「おかげさま」であふれています。それに気づいたとき、思い出してみてください。まさに仏さまのはたらきが、今、私たちのところにあることを。いつでもどこでも間に合うように、はたらき通してくださっていることを。日々の暮らしのさまざまな出来事を通して、仏恩報謝のこころを伝える。

「本堂障壁画八面」修理事業の報告について

『久遠』第三十七号の誌上にてお知らせいたしました、重要文化財「本堂障壁画八面」の修理事業についての進捗状況をご報告させていただきます。

二〇二〇（令和二）年九月十八日、修理が行われている工房がある京都国立博物館内文化財保存修理所を視察いたしました。

二〇一九年（令和元）年六月の京都府文化財保護課の調査で、障壁画八面全体（松に藤図四面・桜に牡丹図四面）のうち、『桜に牡丹図四面』の剥落が特に進行していることが判明いたしましたので、この度の修理では、まず先に『桜に牡丹図四面』の絵具層養生、剥落止め作業が行われています。

今後は、段階的に金箔の補修や色彩を加える補彩が施工されます。

また、現時点までの修理作業で分かったことは、障壁画（襖絵）に使用されている引手金具について、過去の補修において数ヶ所が新調されていますが、当初から取り付けてあった引手金具（二個）は、桃山時代から江戸時代初期の製作で文化的、歴史的にも大変価値があることが判明いたしました。

「本堂障壁画八面」は、昭和五十六年に国の重要文化財に指定された宗門の貴重な財産であるとともに、本願寺西山別院が永世に護持伝承する襖絵です。

今後も順次、修理状況を報告させていただきます。

◆一六一八（元和四）年頃
徳力善宗作
江戸初期の本願寺お抱え絵師、徳力善宗の現存する唯一の作品。
画面いっぱいに描かれた巨大な老松に絡みつく藤。咲き乱れる満開の桜に鮮やかな紅が印象的な牡丹。桃山文化の気風を受け継いだ絢爛な金障壁画。（非公開）

松に藤図

桜に牡丹図

重要文化財指定【絵第1823号】昭和56年6月9日指定
本堂障壁画　八面
紙本金地著色松に藤図　襖貼付四
紙本金地著色桜に牡丹図　襖貼付四
寸法：各縦210.8センチメートル　横101.3センチメートル

西山御坊で SDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

「SDGs」とは、「持続可能な開発目標」の略称です。
2015年9月の国連サミットで採択されたもので、国連加盟193か国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた目標です。Sustainable Development 17Goals

「今私たちの出来る事は何か」まずは出来ることから取り組んでいきましょう。

二〇二〇（令和二）年十一月十八日
川岡小学校から子供達が来てくれました！

学習の一環として「川岡小学校付近のまちたんけん」をテーマに七名の小学生が来院されました。長屋輪番が境内を案内して、西山別院の由緒沿革のほか、本堂（京都府指定有形文化財建造物指定）や襖絵（重要文化財）の説明をいたしました。

体験学習を通して、川岡地域の歴史と文化の大切さを実感していただきました。

二〇二〇（令和二）年十月三十日
西山幼稚園の年長のみんなで、「名月の夕べ」と題した催しをしました。

「秋空のもと、綺麗な月をみんなで鑑賞し、古くからある日本の伝統行事の〝中秋の名月〟を体感する」ということをテーマに、提灯の明かりを頼りに、お月見をして、秋の虫の声をみんなで聴きました。

提灯は、使い終えた牛乳パックをリサイクルし、園児のみんなで作りました。

リサイクルを通し、SDGsの十二番目「つくる責任　つかう責任」を学びました。

＊本願寺西山別院の境内地にある西山幼稚園の卒園児の保護者が中心となって出来た「西山御坊ぎんなん会」もまた、SDGsの活動を推進しています。

地域連携の取り組みとして、西山別院を会場として活動しています。（学）西山幼稚園とも連携し、子育て中の方にもご参加いただけるような、リサイクル活動やコンサート・公開講座等を実施しています。

西山別院も連携して取り組んで参りますので、どうぞ皆様のご理解とご協力をお願い申しあげます。

SDGsは私たちの将来、子どもや孫の人生を明るくすることを目標にしています。地球環境の問題や、エネルギー政策、食品ロス等、いま私たちの出来る事は何か、まずは出来ることから取り組んでいきましょう。